

は〜もにい

Harmony

南相馬市



「は〜もにい」には、「調和」や「和音」という意味があります。男女がお互いに尊重し、支え合い、仕事と家庭のよりよいバランスを考えていくことによって、より心地よくもっと心に響くハーモニーを奏でられたら……そんな願いをこめて本紙に名付けました。

主な内容

CONTENTS

- 男女共にさらなる活躍を
- 地域で輝く女性
- マタニティファミリーセミナー紹介
- 男女共生推進事業
「防災入門講座」

第7号

2016年春号

男女共にさらなる活躍を

ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業 株式会社東邦銀行を紹介いたします。



▲編集委員（左）と戸田室長（右）

福島県ワーク・ライフ・バランス大賞受賞、郡山市男女共同参画推進事業者表彰をはじめ、事業所内保育施設の設置や「イクまご休暇」の創設等、仕事と家庭の両立支援への取り組みを行っている東邦銀行人事部職員活躍推進室長の戸田満紀子さんにお話を伺いました。

Q：企業としてワーク・ライフ・バランス支援の取り組みを始めたきっかけは。

「人を大事にする経営」を基本的な考え方として取り組んできました。基本方針に沿って取り組んでいることが、ワーク・ライフ・バランスの支援につながっていると思います。

Q：支援への取り組みについて。

当行では、「仕事と家庭の両立」と「多様な働き方」の支援に取り組んでいます。出産・育児や介護と家庭を両立するための制度については、「仕事と家庭の両立支援」ガイドブックを作成・配付し、制度の周知と利用促進を図っています。制度を利用しながら、仕事と家庭を両立させて働き続けて欲しいです。

Q：女性の管理職登用については。

当行では、女性の管理職比率を2020年までに15%以上にすることを目標として、研修の充実や職域拡大等によるキャリア形成を図り、女性活躍推進に取り組んでいます。平成27年10月1日現在、女性支店長5名、副支店長6名、課・室長2名、次長11名と女性の登用も進んでいます。

Q：休まれたら困るのではないですか。

日頃からコミュニケーションを図り、上司が部下の状況を把握することが大切だと思います。そのうえで、相談しやすい環境や従業員同士がお互いに支えあう体制を作ることが必要だと思います。女性の育児休業取得率は100%を達成し、男性の育児休業取得者も増えています。最近では「イクボス」の育成にも取り組んでいます。

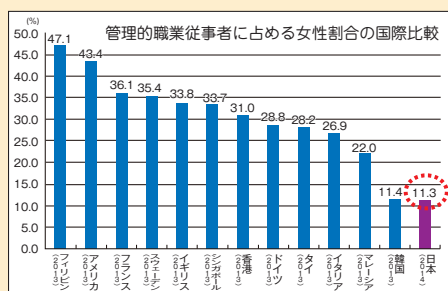
Q：企業として目指すべき目標は。

従業員一人ひとりが仕事と家庭を両立しながら生き生きと働くために、両立支援制度を利用して欲しいです。男女共にさらなる活躍ができる職場環境づくりを目指します。

取材を終えて

“人を大事にする”ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）とダイバーシティ（多様な働き方）支援の施策内容は、とてもきめ細やかなものでした。特に印象に残ったのは、イクメン・イクボスへの取り組みです。男性育児休業対象者へ所属長自ら、育児休業に関するガイドブックを直接手渡すこと。さらに、支店における育児休業の研修の講師は、管理職であるということでした。「両立支援制度は働き続けるための制度であるという意識改革を行っています。」と話す戸田室長の笑顔が輝いて見えました。

資料



国際的に見た管理職の女性比率

日本の管理職に占める女性の割合は、国際的に見るとその水準は低く、アジア諸国と比べても特に低い水準にある。

人口減少局面を迎え、将来の労働力不足が懸念されている中で、国民のニーズの多様化やグローバル化に対応するためにも、企業等における人材の多様性を確保することが不可欠となっており、女性の活躍の推進が重要と考えられています。

政府においても「指導的地位に占める女性の割合を2020年までに30%とする」目標を掲げています。

地域で輝く女性



▲北村さん（左）と小野さん（右）

大甕剣道スポーツ少年団で、子どもたちの剣道の指導にあたっているお二人にお話を伺いました。

おの ゆきえ
小野 幸枝 さん(45歳)

きたむら まき
北村 真紀 さん(37歳)

Q：剣道を始めたきっかけをお聞かせください。

小野さん：父親が剣道の指導をしていて、兄が習っていたこともあり、その影響を受けて私も習い始めました。小学校低学年から始めて中学校まで続けましたが、その後は剣道から離れていました。子どもが剣道を習うようになり、また自分も剣道をやるようになりました。

北村さん：姉が「剣道をやりたい」と言ったのをきっかけに一緒に習い始めました。小学生から高校生まで続けました。高校の顧問の先生からは、剣道を通して、苦しいことがあっても前向きに考えることを教えてもらいました。

Q：子どもたちに指導するようになったきっかけは何ですか。

小野さん：息子が大甕剣道スポーツ少年団で剣道をやるようになり、私自身も一緒に練習しながら、その当時、指導していた方から声をかけられたのをきっかけに子どもたちの指導に関わるようになりました。

北村さん：震災後、4段を取得し、指導できる立場になった時、大甕剣道スポーツ少年団で指導をされている荒 忠敬先生の指導理念に感動し、大甕で指導しながら学びたいと思い、今に至ります。

Q：指導にあたり、心がけていることはどんなことですか。

小野さん：まずは礼儀作法です。子どもたちがどこに行っても恥ずかしくないよう、きちんと挨拶ができる人になってもらいたいと思って指導しています。また、きれいな剣道を身につけてほしいと思っているので、「基本に忠実に」ということを常に心がけています。指導者としては、まだまだ未熟なので、尊敬する指導者の言葉を思い出しながら、指導にあたっています。

北村さん：剣道は、体力にまかせて行うスポーツではなく、技を出し、応じ、老若男女を問わず、力の弱い女性でも男性と共に、自分の持っている技量や体力に応じて稽古することができるのが特徴です。礼に始まり礼に終わるといわれるくらい、礼に対して厳しい指導を受けました。子どもたちには、勝つことよりも相手への感謝の気持ちと礼儀の気持ちを忘れないようにと指導しています。

Q：指導をしていて、やりがいや嬉しいと感じるときはどんな時ですか。

小野さん：基本に忠実な剣道が認められ、子どもたちが賞を取った時は嬉しかったです。指導してきたことができるようになって、認められた時は嬉しくやりがいを感じます。

北村さん：練習はとても厳しいですが、「大甕の少年団は挨拶がいいね」「礼儀が正しいね」と言われるのが嬉しいです。小さい女の子からは、「先生に来てほしい」「先生また来る?」と言われたりします。やはり女性なので言いやすいところがあるのだと思います。

Q：お子さんをはじめ家族の反応は。

小野さん：私が剣道をやっていることについて、家族は理解してくれています。息子にとっては、母親が指導に関わっていることで、やりにくいかなと思うこともありました。練習中は私を指導者としてみてくれていました。息子が中・高校生になってからは、剣道について対等に相談しあえるようになりました。成人した今でも息子は良き相談相手で、親子で剣道をやっていて良かったと思っています。

北村さん：2人の子どもがいますが、2人とも剣道をしています。私自身仕事をして、剣道もやっているの、家事は時間の割り振りを決め、効率よくできるように考えてやっています。

夫は、子どもたちを遊びに連れて行って、コミュニケーションを大切にしてくれています。また、剣道の厳しさをよく理解してくれています。時々「大丈夫か」と声をかけてもらえるのが、何よりの気遣いでとても嬉しいです。

Q：お二人にとって剣道とは。

小野さん：「生きがい」です。(笑)

迷うことも多々ありますが、仲間がいて、いろんなことを感じ、教えられ、楽しく精進しながら、死ぬまで続けていきたいと思っています。

北村さん：「剣は心なり 心正しからざれば剣また正しからず 剣を学ばんと欲すればまず心を磨け 継続は力なり」



▲気合の入った練習

Q：お二人の今後の目標をお聞かせください。

小野さん：指導している子どもたちが礼儀正しく、基本に忠実な剣道ができるようになってほしいです。個人的には、昨年5段取得後に体調を崩し、練習ができなかったので、一から基本を見直して練習に取り組みたいです。そして、2年後の6段昇段審査に挑戦したいです

北村さん：今年、5段昇段審査ですので、自分の稽古も頑張ります。何より思うことは、子どもたちがわかりやすいように目線を同じにし、一緒に汗をかきたいです。「剣道の楽しさ」や「やっていて良かった」と思ってもらえたらうれしいです。



大壺剣道スポーツ少年団のみなさん

大壺剣道スポーツ少年団は、毎週火・金曜日の午後7時から9時まで、主に大壺小学校体育館で練習しています。

現在、団員は15名。剣道に興味のある小学生・中学生はぜひ一度練習を見に来てください。

取材を終えて

礼に始まり、礼に終わる剣道。シンと静まり返った体育館。指導者の掛け声で一斉に子どもたちの元気な掛け声が響き渡り、体育館が活気に満ちた。

真剣な眼差しで子どもたちに声をかける。基本的な動きを一つ一つ丁寧に教える。子どもたちも真剣に耳を傾ける。「心・技・体」この3つが揃ってはじめて強くなれる。厳しさの中にも温かな眼差しでそう語るお二人の姿は、凛々しく、とても輝いていました。

パパ・ママデビュー！
ここからスタート 子育てしながら自分も成長！
育児を楽しもう！



マタニティファミリーセミナーを実施しています

市では、妊婦さんが安心して妊娠中を過ごし、出産後も楽しく子育てができるようにマタニティファミリーセミナーを実施しています。
 今回は育児編の内容とセミナーに参加された方の感想を紹介します。

内容

- 講 話 「赤ちゃんのお風呂の準備について」「育児用品について」
- 実 技 「沐浴体験」(赤ちゃん人形を使用して、赤ちゃんのお風呂の入れ方を体験学習します)
- 「育児体験」(赤ちゃん人形を使用して、オムツ交換、着替え、抱っこ等を練習します)
- 「妊婦疑似体験」(パパに約10kgのおもりが入った体験セットを身につけてもらい、臨月の妊婦さんの疑似体験をします)



妊婦疑似体験の様子



その他にも…
 グループトーク ママ同士・パパ同士にわかれて自由に話し合いを行います。

生まれる前はなにに注意をすればいいの？ どんな子育てがしてみたい？

パパとママはこんな話をしています

我が子に会えるのが楽しみ！！

- ★子どもが生まれたら一緒にこんなことをしてみたい。
- ★こんな子育てをしたいな。

「みんなに聞いてみたい」「みんなと話したい」「教えてもらいたい」等セミナーに参加することでそんな疑問や不安を解消してくれます。

(こんなことが知りたいよね)

- ・体重管理はどうすればいいの？
- ・ママの運動はどれ位していいの？
- ・ママの間食はどうしているの？
- ・名前は？立会い分娩は？・準備するものはなんだろう？



セミナーに参加したパパ、ママの感想 (アンケートより)

- ◎南相馬市にこんなに妊婦さんがいる事にビックリ。
- ◎お風呂入れの体験ができて良かった。
- ◎パパに体験してもらって心強く感じた。
- ◎身近な情報(お店、洋服、病院)を得られるのが特に良かった。
- ◎病院で妊婦さんを見かけたりしても、あまり話したりできないがセミナーだったら話ができる。
- ◎近くにママ友がないのでこのセミナーに参加して、話をすることによって共感できる。



セミナーの様子

妊娠中や育児に関する情報は、育児書やインターネット等で調べることもできますが、本当にそれでよいのが不安ですね。講話や実習をはじめ、同じ気持ちを持つママやパパ同士、話ができることで少しでも不安解消につながったり、安心できる場となるよう取り組んでいます。次年度は「育児編」の他に「栄養編」「お産の学校編」を実施する予定です。これからもぜひ本セミナーや保健センターを活用してください。(セミナー スタッフ一同)



南相馬市男女共生推進事業

「防災入門講座」を開催しました!!

テーマ 「性別・多様性に配慮した災害対策と被災者支援」

平成27年8月6日、市と福島県男女共生センター共催により浅野幸子氏（減災と男女共同参画研修推進センター共同代表）を講師に「防災入門講座」を開催しました。

震災の教訓を踏まえ、災害について日頃から考え、十分な知識を持ち適切な行動がとれるよう備えておくことが大切であることから、避難所運営に関わる職員や女性消防隊・福祉避難所担当職員等を対象に研修を行いました。

研修では、防災基礎知識、性別や立場別の被災経験と対策、それぞれの被災経験を振り返り、自分たちの仕事や活動に役立つ具体的な手法等に加え、日頃から、男女共同参画を意識することの大切さを学びました。

参加した方々からは次のような感想が寄せられました。

- ◎ 役割を決め担当者が聞き取り、皆と共有するなど、これからやるべきことが見えてきて良かった。
- ◎ 当時の振り返りを含めて、知識を得ることができ、性別や立場別の重要性も感じられた。

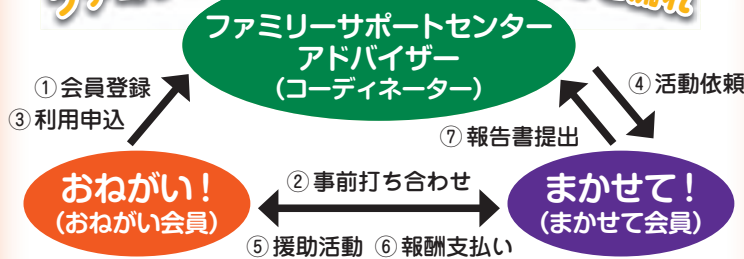
- ◎ きめ細やかな配慮が必要だと思い、事前の準備がとても大切と感じた。
- ◎ 性別、立場別それぞれの立場の人に、意思決定の場に入ってもらうことがとても大切だと思った。
- ◎ 男性、女性の目線の違いがわかり、とても参考になった。

地域の子育てを応援します ファミリーサポート事業

子育ての手助けをしてほしい方（おねがい会員）に、子育ての手助けをしたい方（まかせて会員）を紹介し、相互の信頼と合意のうえで、一時的に子どもを預かり育児の援助を行います。子育て中に助けてもらったので、今度は自分が助けたい。そんな気持ちが地域の子育てを応援します。ファミリーサポートセンターは、両方の橋渡しをします。



ファミリーサポートセンターのしくみと流れ



- ① まず、会員登録をします。
- ② センターは、おねがい会員とまかせて会員の三者で事前打ち合わせ（初回のみ）をします。
- ③ おねがい会員は、援助を依頼したい日時が決まったらセンターへ利用の申込みをします。
- ④ センターは、まかせて会員に援助の依頼をします。
- ⑤ まかせて会員は、依頼された内容にそって活動します。
- ⑥ 援助活動が終わったら、おねがい会員は決められた報酬をまかせて会員に支払います。
- ⑦ まかせて会員は、援助活動報告書をセンターへ提出します。

こんなとき応援します

- ◎ 仕事等で育児ができないとき
- ◎ 冠婚葬祭等で育児ができないとき
- ◎ 保育園・幼稚園等の送迎ができないとき、またその前後の育児ができないとき
- ◎ 育児疲れで少し休みたいときや、買い物などリフレッシュしたいとき

サポートセンターでは、おねがい会員・まかせて会員を募集しています。

南相馬市ファミリーサポートセンター

問合せ先：南相馬市社会福祉協議会
〒975-0011 南相馬市原町区小川町322-1（原町福祉会館内）
電話：26-5669 受付時間：月～金曜日 午前9時～午後6時
（土日祝日・年末年始を除く）

表紙イラスト：小原 風子 さん

1971年福島市生まれ。子どもたちとかかわる仕事を続けながら海のそばにて絵や絵本の制作を続けています。現在、南相馬市在住。

編集後記 編集にあたり企業の取組みや地元の団体の活動を掲載致しました。読者の方々にも男女共同参画を理解して頂くためにも今後も情報を継続して発信していきたいと思っております。今回取材にご協力頂きました企業、団体の皆様ありがとうございました。（新川）

この情報紙は、南相馬市男女共同参画計画推進委員会広報・情報誌部会の委員が企画・編集しました。

「は～もにい」へのご意見・ご感想などをお寄せください。また、地域で頑張っている方、男女共同参画を推進している職場の情報などをお寄せください。

発行：南相馬市健康福祉部男女共同こども課

〒975-8686 南相馬市原町区本町2-27

TEL / 0244-24-5215

FAX / 0244-24-5740

E-mail : danjokodomo@city.minamisoma.lg.jp



キラっ人☆ふくしま
～福島県女性活躍応援
ポータルサイト～

県内の女性の活躍促進
に関する情報満載です。

http://www.kiratto-fukushima.jp/